

原著

心臓カテーテル室における看護師の声かけに関する一考察

立石 朋子^{1)*} 佐々木 真希¹⁾ 室館 望¹⁾

要旨：現在、心臓カテーテル検査前訪問は実施をしていない。検査開始直前に検査中の体動制限や身体的・精神的苦痛の表出方法について短時間で説明し、検査中も声掛けはしている。しかし、何も訴えずに急に動き出す患者もいる。そこで、看護師が行っている声掛けの効果をアンケート調査した。その結果、心臓カテーテルの看護師の声掛けは、患者の緊張を緩和し、患者が自分の思考を表現しやすくするのに効果的であると考えられた。

キーワード：心臓カテーテル 声掛け 緊張緩和

ORIGINAL ARTICLES

Effect of verbal communication in cardiac catheterization laboratory

Tomoko TATEISHI^{1)*} Maki SASAKI¹⁾ Nozomi MURODATE¹⁾

Abstract : At present, we do not carry out visiting patients before examination employing cardiac catheterization. Of course, just before starting it we explain briefly how to express physical and mental pain of theirs and during it we ask and check their conditions. However, there have been some patients who move suddenly without saying anything, sometimes leading to unexpected high risk. Therefore, we investigated the effect of verbal communication such as asking some questions by nurse to the safety of examination by using questionnaire survey. As a result, it was suggested that verbal communication during examination efficiently relieved tension of the patients and made them easy to express their own thoughts.

Keywords: cardiac catheterization examination, verbal communication, relaxation

¹⁾ Emergency and inspection nursing group, Mutsu General Hospital

* Corresponding author: T. Tateishi
(nurse@hospital-mutsu.or.jp)

1-2-8 Kogawa-machi, Mutsu 035-8601, Japan

Received for publication, March 23, 2018

Accepted for publication, June 28, 2018

¹⁾ むつ総合病院救急・検査看護班

*責任著者：立石朋子

(nurse@hospital-mutsu.or.jp)

〒035-8601 青森県むつ市小川町一丁目2番8号

TEL:0175-22-2111 FAX:0175-22-4439

平成30年3月23日受付

平成30年6月28日受理

はじめに

心臓カテーテル検査（以下心カテと略する）は、意識下で経皮的にガイドワイヤーを用いてカテーテルを血管内に挿入し、造影検査・血行動態の検査・電気生理検査等を行うもので、侵襲的検査と呼ばれている。検査後の安静時間が短い橈骨動脈からの穿刺が主流となり、全国的には年間50万件前後行われている。

A病院では年間400～500件施行されており、その内、予定の心カテは月に20～30件、臨時の心カテは月に3～5件行われている。毎週月曜、水曜、木曜の午後に検査業務班看護師が2名ずつ日替わりで担当している。現在、検査前訪問の実施はしていない為、患者と直接対面するのは検査直前となり、検査中の体動制限や気分不快・不安などの身体的・精神的苦痛の表出方法について短時間で説明をしなければならない状況にある。心カテ開始前に患者へ「何かあったら体は動かさず、声に出して教えてください」と説明し、検査中も声掛けを行って苦痛の有無を確認している。

しかし現状は、自分の言いたい事を伝えられず、腰痛を限界まで我慢して辛くなり、動き出してしまう患者や嘔気を訴えないまま顔の横に嘔吐してしまう患者がいる。竹淵¹⁾は「検査中、患者の緊張を緩和するために声掛けを意識的に行い、訴えを表出しやすい雰囲気を作ること、処置に伴う痛み等の感覚情報をその都度患者に伝えていく必要がある。」と述べている。長沼²⁾らの行った心カテ中の良かったと感じた看護ケアの調査では、「励ましの声掛け」「苦痛の確認」「看護師が近くにいてくれた」など身体的苦痛の緩和への援助よりも、精神面への援助が苦痛や不安の緩和につながり、満足感が得られているという結果が報告されている。

そこで、看護師が心カテ中に行っている声掛けは、患者の緊張を緩和する事や患者が思っている事を表出しやすくする事に繋がっているのか調査した。

目的

心カテ中に看護師が行っている声掛けは、患者の緊張を緩和する事や患者が思っている事を表出しやすくする事に繋がっているのか調査する。

方法

1. 研究対象：A病院で平成29年1月23日～8月31日に予定心臓カテーテル検査を受けた患者100名。

年齢、性別、心カテ経験回数は問わない。

2. データ収集方法：検査終了から心臓カテーテル室退出までの間に検査担当看護師がアンケート内容について説明し、協力依頼をする。アンケート提出は任意であり、強制でない事を伝える。同意を得られた場合のみ無記名で病棟ナースステーション前に設置した回収箱に投函してもらう。アンケート用紙は自作のものを使用。病棟へは研究計画書と書面での協力依頼を提出した上で、研究担当者が病棟師長、主任へ具体的な説明と協力依頼を口頭で行った。

記入済みアンケートは、毎週金曜日に研究担当者が病棟ナースステーションの回収箱から回収する。

3. データ分析方法：各選択式設問項目は単純集計とし、自由記載項目は要約を行った。

4. 研究期間：平成28年8月～平成30年2月

倫理的配慮

研究対象者には研究目的、得られた情報は本研究以外には使用せず、個人情報保護に努めること、参加は自由意志であることを口頭及び書面で説明する。アンケート用紙を回収箱へ投函してもらったことで、本研究に同意を得たとみなす。アンケートにて得られた情報は、個人が特定されるような情報公開は行わず、研究終了後すみやかにシュレッターにかけ処理する。

結果

アンケート調査は平成29年1月23日～8月31日までの期間で行い、100名に配布した。回収数は49名、回収率49%。有効回答数は43名、有効回答率87%であった。

1. 対象の属性

性別は男性33名(76.7%)、女性10名(23.3%)であった。(表1)

年齢は20～30歳代1名(2.3%)、40～50歳代12名(27.9%)、60～70歳代23名(53.5%)、80歳代が7名(16.3%)であった。(表2)

心カテ経験回数は初回25名(58.1%)、2回目以降18名(41.9%)であった。(表3)

表1. 性別

男性	女性
33名(76.7%)	10名(23.3%)

表2. 年齢

20～30歳代	40～50歳代	60～70歳代	80歳代
1名(2.3%)	12名(27.9%)	23名(53.5%)	7名(16.3%)

表 3. 心臓カテーテル検査の経験回数

①初めて	②2回目	③3回目以上
25名(58.1%)	10名(23.3%)	8名(18.6%)

2. 看護師からの説明や声掛けについて

検査が始まるまでに看護師からの説明は「あった」38名(88.4%)「なかった」5名(11.6%)であった。

検査時に看護師からの声掛けは「あった」42名(97.7%)「なかった」1名(2.3%)で、看護師の声かけが安心や緊張の和らぎに繋がったかについてはどちらも「はい」41名(95.3%)「いいえ」2名(4.7%)であった。声掛けが安心や緊張の和らぎに繋がらなかった理由としては「そもそも不安が大きかった」「治療中、何の問いかけもなかった」が挙げられた。

3. 看護師からの説明の理解について

心カテ室での看護師からの説明は「理解でき

た」37名(86%)「理解できなかった」2名(4.7%)「回答なし」4名(9.3%), 理解できなかった理由として「難しい」1名「聞き取れなかった」1名であった。

4. 看護師に自分の言いたい事を伝える事について

心カテ入室時に自分の言いたい事を伝える事が「出来た」23名(53.5%)「出来なかった」18名(41.9%)「回答なし」2名(4.6%), 出来なかった理由として「遠慮した」3名「言いたい事がなかった」13名「その他」2名であった。

心カテ中に看護師へ自分の言いたい事を伝える事が「出来た」25名(58.1%)「出来なかった」11名(25.6%)「回答なし」7名(16.3%), 出来なかった理由として「遠慮した」1名「言いたい事がなかった」8名「その他」1名であった。

(表 4)

表 4. 選択式設問項目

設問	①はい (出来た)	②いいえ (出来なかった)
検査が始まるまでに看護師からの説明はあったか	38名 (88.4%)	5名 (11.6%)
看護師からの説明は理解できたか	37名 (86%)	2名 (4.7%)
検査時に看護師からの声掛けはあったか	42名 (97.7%)	1名 (2.3%)
看護師からの声掛けは安心に繋がったか	41名 (95.3%)	2名 (4.7%)
看護師からの声掛けで緊張は和らいだか	41名 (95.3%)	2名 (4.7%)
看護師からの声掛けのタイミングは適切だったか	41名 (95.3%)	2名 (4.7%)
検査室入室時、看護師に自分の言いたい事を伝える事が出来たか	23名 (53.5%)	18名 (41.9%)
検査中、看護師に自分の言いたい事を伝える事が出来たか	25名 (58.1%)	11名 (25.6%)

5. 検査中に自分の言いたい事を伝えやすくする方法について

「看護師がそばにいるといい」14名、「頻回に声を掛けて欲しい」9名、「ナースコールがあるといい」2名、「今のままでいい」12名であった。

6. 自由回答欄には、看護師の声掛けについて「安心できた」4名、「緊張が和らいだ」3名、「不安を沈めた」2名の意見があった。

また一方で、声掛けが不十分であったことで「造影剤が投入される時、一声欲しかった。投入されると圧迫感があり、少し苦しかった。」という意見もあった。

考察

心臓カテーテル検査は、手術と同様に清潔野を確保し清潔操作で行われるため、患者は検査体位となった後は体動を制限され、視野も限られてし

まう。看護師は、検査が開始されると透視下であるため常に患者のそばにいる事は出来ない。また、患者に声を掛けるのも術者のカテーテル操作に影響しないタイミングを狙う必要がある。その状況下で行われる検査において、心カテ担当看護師は十分な看護が行えているのか不安であった。これまで患者に対し出来る看護は何かを考え、意識的な声掛けを行ってきたが、それは患者の緊張を緩和する事や患者が思っている事を表出しやすくすることに繋がっているのか知りたいと考え調査した。

今回の調査で対象者の年齢、性別、心臓カテーテル検査経験回数は問わなかったが、回答が得られた対象者の半数以上は60歳以上であった。看護師は患者のそばで説明を行っていたが、理解できなかった理由の「難しい」「聞き取れなかった」という点では患者が高齢な事も影響しているのではないかと推測される。高齢の患者では難聴の

ため説明に時間を要することもあった。心臓カテーテル検査室入室から検査開始までに看護師から説明があったかとの問いに「あった」と回答したのは 38 名であったが、看護師からの声掛けについては 42 名が「あった」と回答している。このことに関しては、検査説明についてマニュアル化されていないため、看護師によって説明方法に違いがあり、話している内容が説明と受け取られなかったのではないかと、検査前の緊張した状態で短時間に次々説明されるため理解するのは困難であったのではないかとという 2 点が考えられた。

看護師からの声掛けの効果としては、「安心に繋がった」「緊張が和らいだ」がともに 41 名 (95.3%) が回答している。意見や感想についての自由記載欄には、「そばに看護師がいてと思えば心強かった」「声掛けが不安感を鎮めた」「看護師の適切な助言により安心した」との言葉が多く、看護師の声掛けや患者のそばにいただけでも患者の緊張を緩和する事に繋がっていると考えられた。看護師に言いたい事を伝えられた患者も過半数を超え、伝えられなかったと回答した患者の多くは理由として「言いたい事がなかった」と回答している。検査中に自分の言いたい事を伝えやすくする方法についての意見に関しても、「看護師がそばにいといい」「今のままでいい」といった意見が半数以上であり、看護師がこれまで心カテ中に実施してきた「声掛け」という行為は、患者の思っていることを表出しやすくすることに繋がっていると考えられた。

一方で「治療中、何の問いかけもなかった」「造影剤が投入される時、一声欲しかった」という意見もあった。これまでの看護師の声掛けでは、竹淵¹⁾の述べている「検査中、患者の緊張を緩和するために声掛けを意識的に行い、訴えを表出しやすい雰囲気を作ること」は出来ていたが、「処置に伴う痛み等の感覚情報をその都度患者に伝えていく必要がある」という点がまだ不足していた。今後は、より検査の進行状況を考慮して声掛けのタイミングを図り、患者に伝わりやすい説明内容を検討していく必要がある。

結論

現在の心カテ中における看護師の声掛けは、患者の緊張を緩和する事や患者が思っている事を表出しやすくすることに有効であったと考える。

今回の調査で様々な患者の意見を得て、さらに今後の課題を明確にし、心カテ時における看護ケアの向上を目指していく。

引用文献

- 1) 竹淵まりこ「カテーテルアブレーションを受ける患者に対する苦痛緩和への援助を通して血管造影室における看護師の関わりを考える」関東農村医学会 29 回抄録集：70-71 2002
- 2) 長沼みずき、他「血管造影室の看護師に患者がもとめているもの」Yamanashi Nursing Journal Vol.6 No.1 2007